

株式会社ユニテッドアローズ サステナビリティの取り組み

2021年2月5日
株式会社ユニテッドアローズ

Copyright 2020 UNITED ARROWS LTD. All Rights Reserved

本日は第3四半期決算の付帯説明会として、当社のサステナビリティの取り組みについて説明する。

**私たちは「生活文化のスタンダードの創造」を目指し
5つの価値創造を通じて
持続可能な社会と環境の実現に向け、
主体的に行動し続けます。**

**私たちは、それを積み重ねることで
世界を豊かにし輝かせることができると信じています。**

Copyright 2020 UNITED ARROWS LTD. All Rights Reserved

2

まず、取り組みに至った背景などを簡潔に説明する。

もともと当社では経営理念体系の一つに「社会との約束・5つの価値向上」を掲げ、お客様、従業員、お取引先様、社会、株主様の5つのステークホルダーの価値を向上することを会社の使命としてきた。その考えは今も全く変わらない。ただし、2015年に国連で掲げられたSDGsの目標に照らし合わせた場合、対応が十分でないことや、もっと社会や環境の課題解決につながる取り組みがあるのではないかと考え、前期2020年3月期の経営方針の一つに「5つの価値創造の推進による社会的な課題への対応」を設定し、「ESGやSDGsに対する知識の体系化」や「ESGの評価視点に基づいた具体的取り組みの企画」等に取り組んでいくことを定めた。

約1年かけて幹部社員へのアンケートやヒアリング、外部有識者とのディスカッションや勉強会などを行いながら、取締役が中心となり、サステナビリティステートメント、5つのテーマ、16のマテリアリティを定めた。これらは2021年3月期から開始された中期経営計画に掲げ、関係各部の行動計画に落とし込んだ上で全社で推進している。なお、中期経営計画についてはコロナ禍の影響で営業戦略や業績目標は変更したが、サステナビリティの目標は変えていない。

また、特に今期からは、代表取締役の竹田を委員長とし、全ての業務執行取締役を委員とし、社外取締役をオブザーバーとしたサステナビリティ委員会を立ち上げ、月に1回から2回の開催を行い、5つのテーマ、16のマテリアリティに沿った取り組みを推進している。

ここからステートメント、5つのテーマ、16のマテリアリティの具体的な説明をしていく。

ステートメントについては、ご覧のスライドのとおり。いま説明してきたことを落とし込んでいる。ステートメントで「主体的に行動する」ということを宣言している。

次ページ以降で5つのテーマ、16のマテリアリティについて説明する。

テーマ		マテリアリティー	目指すSDGs
1	サプライチェーン	責任ある商品調達とサプライチェーンの構築	
2	資源	廃棄物削減と循環型モデルの実現	
3	コミュニティ	地域社会の発展をめざした活動の継続	
4	人材	個の尊重と働きがいを生む環境づくり	
5	ガバナンス	100年企業をめざした経営基盤の確立	

Copyright 2020 UNITED ARROWS LTD. All Rights Reserved

3

ご覧のスライドが当社で定めた5つのテーマと16のマテリアリティーである。
衣料品小売業として重要な項目をテーマ設定できているのではないかと考える。

1つ目のテーマはサプライチェーン。副題として「責任ある商品調達とサプライチェーンの構築」を掲げている。

マテリアリティーはご覧のとおり6つ設定している。商品や素材自体に関するサステナビリティ観点からのテーマや、関わる方々の人権と労働環境について、また商品の生産等にかかわるCO2排出やエネルギー利用についてのテーマを設定している。

2つ目は資源。副題として「廃棄物削減と循環型モデルの実現」を掲げ、2つのマテリアリティーを設定している。

昨今、日本のアパレル商品について、生産されたもののうち販売されるのは半分程度で残りは廃棄されるといった報道も目にする。当社においては、残念ながらまだ廃棄はあるものの、調達した商品の99%程度は通常の店舗やアウトレット、一部催事などで販売し、残ったごく一部の、主に販売が困難な商品(品質管理タグのついていないサンプル商品や当社の瑕疵で傷つけてしまった傷物商品など)を廃棄している。ただし、廃棄はやはり地球環境にとって非常に負荷がかかることであるため、当社としては商品廃棄を可能な限り削減していきたいと考える。

また、商品のみでなく、販売備品や店舗の什器といった営業活動に伴って排出される廃棄品もある。
廃棄物自体を削減する活動やリユース、リサイクルも推進することで、企業全体の廃棄物の削減を目指す。

3つ目はコミュニティ。副題として「地域社会の発展をめざした活動の継続」を掲げ、「地域社会・コミュニティや被災地の支援」をマテリアリティーとして設定している。こちらは、今まで継続的に行ってきた寄付の取り組みや、商品企画を通じた支援などを引き続き行っていく。後者の事例では、2014年より国連機関である国際貿易センター(ITC)のプロジェクト「エシカル・ファッションイニシアチブ(EFI)」と協業し、ケニアやブルキナファソといった困難な経済・社会状況下にある女性に対して、金銭的な支援ではなく、職業機会の提供による経済的な自立支援を行うことを目標とした商品展開などを行っている。

4つ目は人材。副題として「個の尊重と働きがいを生む環境づくり」を掲げ、4つのマテリアリティーを設定している。こちらは主に人事部門が主導し、女性管理職比率の向上や働き方改革に向けた規程等の整備、従業員意識調査による満足度調査(eNPS)などを実施し、働きがいを生む環境づくりを推進する。

5つ目はガバナンス。副題として「100年企業をめざした経営基盤の確立」を掲げ、3つのマテリアリティーを設定している。ガバナンスについてはまさにガバナンスコードに準拠した取組みの推進等をおこなうことで透明・公正な経営体制の構築および迅速な意思決定を目指す。また、リスクマネジメント・コンプライアンスについては活動全体のブラッシュアップを目指し、個人情報保護については、昨今、SNSを活用した非対面接客など、接客の多様化に伴い社内のルールの見直しなどを推進していく。

テーマ		マテリアリティ	中期目標（～2022年）	
1	サプライチェーン	責任ある商品調達とサプライチェーンの構築	商品調達のトレーサビリティ管理	・トレーサビリティ管理に着手、管理環境の構築 ・商品の危険物混入、品質不良、誤表記の未発生。万が一発生した際も迅速な対応と改善の実施
			サプライチェーンにおける人権と労働環境の尊重	・取引先様向け行動指針同意書の取得促進 ・主要国内取引先様のモニタリングの100%実施 ・主要海外取引先様のモニタリングの実施
			環境配慮素材の利用推進	設定ポリシーと設定目標に基づく調達の実施
			生物多様性・動物福祉に配慮した原材料調達	設定ポリシーと設定目標に基づく調達の実施
			低炭素化の推進	中期期間中に目標設定および開始予定
			省エネルギー・再生可能エネルギー利用の推進	中期期間中に目標設定および開始予定
2	資源	廃棄物削減と循環型モデルの実現	事業活動による廃棄物の削減	・商品廃棄点数が2020年3月期比で半減 ・使い捨てプラスチック製販売備品の削減 ・紙製包装資材の環境対応素材紙への切り替え
			不要になった商品の回収・リユース・リサイクル推進	中期期間中に目標設定および開始予定

サステナビリティで掲げたステートメントを実現していくために、今回の中期計画では事業活動とより一体となったサステナビリティの取り組みを主体的に進めていく。

4、5ページに示したとおり、5つのテーマ、16のマテリアリティごとに中長期的な活動目標について現在策定中である。

ある程度具体的な目標を定めている項目もあるが、多くの項目は現状の調査を行いながら、順次中長期的な目標設定等を行っていく。

これらの中期目標については、まだ策定途中でもあるため、詳細な説明は省略するが、留意点としては現在目標としてある程度定めている項目についても、今後より精緻な目標設定とする可能性がある。また、サステナビリティ委員会で討議の上、具体的な目標が定まった項目については、今後サステナビリティサイト等で開示していく。

テーマ		マテリアリティ	中期目標（～2022年）	
3	コミュニティ	地域社会の発展をめざした活動の継続	地域社会・コミュニティや被災地の支援 中期期間中に目標設定および開始予定	
4	人材	個の尊重と働きがいを生む環境づくり	ダイバーシティ・インクルージョンの推進	・女性管理職比率（店長以上35%以上、課長以上20%以上） ・障がい者雇用率の向上
			働き方改革	・従業員意識調査におけるモニタリング数値の向上
			人材育成	・教育投資額の充実
			適正な評価・報酬	・従業員意識調査におけるモニタリング数値の向上
5	ガバナンス	100年企業をめざした経営基盤の確立	コーポレートガバナンス	中期期間中に目標設定および開始予定
			リスクマネジメント・コンプライアンス	リスクマネジメント、クライシスマネジメントおよびコンプライアンスの各種施策を実施・検証し、当社におけるそれぞれのスタイルを確立
			個人情報保護と情報セキュリティ	あるべき管理と運用体制の整備・実行による安全性の向上

（前述のとおり）

・サステナブルな社会と環境への貢献に向けた価値創造

テーマ	マテリアリティ	定性目標	1月までの進捗状況
サプライチェーン	サプライチェーンにおける人権と労働環境の尊重	・取引先様向け行動指針の策定 ・取引先様モニタリングを開始	・行動指針の内容検討 ・モニタリングはコロナの影響により保留
サプライチェーン	環境配慮素材の利用推進	環境配慮素材利用ポリシー(骨子)を策定	・環境配慮素材についてポリシー骨子の決定
サプライチェーン	生物多様性・動物福祉に配慮した原材料調達	動物繊維・動物素材の調達ポリシーを策定	・2019年秋冬実績抽出、分析 ・調達ポリシー決定
資源	事業活動により排出される廃棄物の削減	・商品調達や販売における取組の完遂 ・販売備品における取組の完遂 ・販売備品の廃棄物排出量の削減	・プラ製備品削減、過剰包装の抑制、環境配慮素材への切替えの準備 ・販売備品の精査

Copyright 2020 UNITED ARROWS LTD. All Rights Reserved

6

今期、2021年3月期の単年度のサステナビリティに関する重点取組項目について。昨年5月の決算説明会で示したとおり、今期については「サステナブルな社会と環境への貢献に向けた価値創造」をスローガンに、前述の16のテーマの中から4つの課題を設定した。

スライドのとおり、

- ① サプライチェーンにおける人権と労働環境の尊重
- ② 環境配慮素材の利用推進
- ③ 生物多様性・動物福祉に配慮した原材料調達
- ④ 事業活動により排出される廃棄物の削減

① サプライチェーンにおける人権と労働環境の尊重について

サプライチェーンにおけるお取引先様に向けた行動指針について整備を行っている。現状でも「CSRガイドライン」として主要なお取引先様に関して人権の尊重や環境への配慮などについて当社の規準を遵守いただくようにしているが、先進的な他社事例なども調査しながら、「法令順守、腐敗防止、人権尊重、環境への配慮」等の項目を定め、ブラッシュアップを図っている。

② 環境配慮素材の利用推進 ③ 生物多様性・動物福祉に配慮した原材料調達について

当社にて使用比率の高い素材であるコットンやポリエステルについて、原料または製造工程において、中期および長期のあるべき目標の検討を行っているほか、生物多様性と国際基準に基づく動物福祉に配慮された動物性素材の調達についても、中期および長期の目標について検討を行っている。現時点で大枠の方向性がまとまりつつあり、決定したものについては順次HPなどで開示していく。

④の資源について

今期は主にショッピングバッグや包装用品について、プラ製備品削減、過剰包装の抑制、環境配慮素材への切替を進めている。また、特にショッピングバッグなどお客様に直接ご提供する販売備品などは、当社の展開するマーケット(ハイエンド、トレンド、ミッドトレンドなど)によってお客様のサステナビリティに対する考え方も異なるのではないかと考え、マーケット特性を考慮した上で丁寧に対応していく予定。